

授業科目名	発達心理学		担当教員	阿部 慶賀	科目ナンバリング NB140
必修	開講年次：1年後期	単位：2単位	授業形態：講義30時間		

【授業概要】

人間は身体的、心理的、社会的、霊的側面を持つ統合体であり、生涯にわたって発達していく。また、人間の知能、感情、人格の形成、対人関係、社会的役割などの発達には個人差がある。各発達過程における一般的様相や課題について、主な発達理論を比較しながら考察する。

【達成目標】

人間を生涯発達の視点から見て、各発達過程における特質や発達課題についての知識を取得し、ライフスパンに渡る看護の対象についての理解を深める。「看護現場で活用できる発達心理学の知識」の提供が目標であり、些末な知識の断片を越えて広く人間の「発達」に対して目を開いてもらえるようにすることが目標である。メディアに頻出する発達障害や少子高齢社会での高齢者を取り巻く話題などにも触れ、現場での患者対応の際に支障が出ないようにテーマに親しんでもらう。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] はじめに：発達心理学の視点：発達のエリア / 遺伝か環境か / 発達段階と発達課題
- [02] はじめに：発達心理学の方法論：理論と実験 / 発達の順序 / 生得的性質と学習
- [03] 胎児期・新生児期（～生後1か月）：誕生直後の能力 / 気質 / 進化心理学
- [04] 乳児期（1か月～1歳半）：情緒の表現 / 社会性の基礎 / アタッチメント（愛着）
- [05] 乳児期（1か月～1歳半）：第一反抗期 / 言語獲得 / 二足歩行の開始 / 遊びの意味
- [06] 幼児期（1歳半～5歳）前期：語彙爆発と言語習得 / 自己認知 / 社会性の芽生え / うその理由
- [07] 幼児期後期：自我の発達 / 論理の芽生え / 数の概念 / 保育園・幼稚園の生活 / 他者への関心
- [08] 児童期（小学生）：読み書き・計算能力の向上 / 論理的思考と知能指数 / グループといじめ
- [09] 中間試験（第6回までの内容を出題。第10回にて返却・解説）
- [10] 青年期（中・高、大学生）：人間関係の変化 / 第2次性徴 / 自意識過剰と社会性 / 心理的離乳 / 将来への不安
- [11] 成人期（20代前半～40代前半）：キャリアの積み方、人生のステージ変化（恋愛・結婚・離婚・子育て）
- [12] 成人期（40代後半～60代、定年以降）：中年危機 / 子離れ / 退職後の生活 / 終活
- [13] さまざまな障害とその支援：身体に関わる障害、脳性麻痺、発育
- [14] さまざまな障害とその支援：自閉症、ADHD、限局性学習障害、アスペルガー症候群、言語障害
- [15] 技の熟達と熟練者の心理

【教科書】

林洋一（監修）（2010）. 史上最強図解よくわかる発達心理学 ナツメ社

【参考書】

指定なし

【評価方法・評価基準】

授業参加と貢献度：40%

中間テスト（期間内に特定課題への試験答案を提出；理解度で評価する）：30%

期末テスト（期間内に特定課題への試験答案を提出；理解度で評価する）：30%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：教科書の該当範囲を事前に読んでおく（1時間）。

事後学習としては発達の視点から看護現場での課題（特に多様な年齢層の患者とのコミュニケーション）を捉えることが望まれる（1時間）。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

テストに関しては事前に十分なガイダンス（その目的や答案作成のコツなど）を行う。採点結果に関してはその総括を授業内において提示する。

【備考】

教科書の図や表だけでなく、動画など視聴覚教材も多用しながら、できるだけ分かり易く発達心理学の基本を説明する。